

キク (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	う ど ん こ 病	褐 斑 病	黒 さ び 病	黒 斑 病	白 さ び 病	灰 色 か び 病	べ と 病	炭 疽 病	黒 星 病	斑 点 病
カリグリーン溶	NC		*b	-	◎				◎					
クムラス顆水	M2		-	-					◎					
コロナFL	M2		-	-					◎					
インプレッションクリア	BM2		*d	-					◎					
アグロケア水	BM2		*d	-	◎				◎					
トップジンM水	1		-	5		◎								
ベンレート水	1		-	6		◎		◎	◎					
ピリカット乳	39		*b	6	◎				◎					
アフェットFL	7		*b	3	◎				◎	◎				
カナメFL	7	劇	*b	3					◎					
バシタック水75	7		*b	5					◎					
パレード20FL	7		*b	3	◎				◎					
アミスター20FL	11		*b	5					◎					
ストロビーFL	11		*b	3		◎		◎	◎					
ファンタジスタ顆水	11		*b	5					◎	◎				
メジャーFL	11		*b	3					◎					
アンビルFL	3		*b	7	◎				◎					
サブロール乳	3		-	5					◎					
チルト乳25	3		*b	3					◎					
トリフミン水	3		*b	5	◎				◎					
トリフミン乳	3		-	5					◎					
マネージ乳	3		*b	6			◎		◎					
ラリー乳	3		*b	5					◎					
ポリオキシシ A L 乳	19		*b	8	◎									
ポリオキシシ A L 溶	19		*b	8					◎					
サンヨール乳	M1		*c	8	◎	◎		◎	◎	◎				
エムダイファー水	M3		*b	8			サ		サ	◎	◎	◎		
ジマンダイセン水	M3		-	8			サ		サ	◎	◎	◎	◎	
ペンコゼブFL	M3		*d	8					◎					
ダコニール1000FL	M5		-	6	◎	◎		◎	◎					◎
ユニフォーム粒	4・11		*e	1					◎					
ポリベリン水	19・M7		*b	8					◎	◎				

\*b:発病初期 \*c:発生初期 \*d:発病前～発病初期 \*e:定植前  
サ:さび病で登録(黒さび病と白さび病を含む)

キ

ク

キク (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	アザミウマ類	アブラムシ類	カメジラミ類	コナジラミ類	ハモグリバエ類	ヨトウムシ類	ハスモンヨトウ	シロイチモジヨトウ	オオタバコガ類	ハダニ類	ネグサレセンチュウ	その他害虫
スピノエース顆水	5		*d	2	◎				◎				◎			
コロマイト水	6		*d	2										◎		
コロマイト乳	6		-	2					◎					◎		
エスマルクDF	11A		*d	-								◎				
ゼンターリ顆水	11A		*d	-						◎						
デルフィン顆水	11A		*d	-								◎				
サフオイル乳	-		*a	-										◎		
マイコタール	-		*d	-		シ								◎		
アドバンテージ粒	1A	劇	*g	3		ナ									◎	
オリオン水40	1A	劇	*d	5		◎				◎		◎				
オンコル粒5	1A		*c	1		ナ										
オンコル粒3			*e	3		◎										
オンコルMC	1A	劇	*d	3		◎										
ガゼット粒	1A	劇	*e	3		カ									◎	
オルトラン水	1B		*d	5		◎			マ				◎			
オルトラン粒	1B		*d	5	◎	◎			◎	◎	◎					ネ
ガードホープ液	1B	劇	*e	2										ミ	セ	
カルホス乳	1B	劇	*d	4				お	マ							
ジェイエース溶	1B		*d	5	◎	◎			マ				◎			
ジェイエース粒	1B		*d	5	◎	◎			マ							
スミチオン乳	1B		-	6		◎	◎			◎	◎					フ
ネマキック粒	1B		*a	1												ダ
ネマトリンエース粒	1B		*a	1										ミ	◎	
マラソン乳	1B		*d	6						◎	◎	◎				
ラグビーMC粒	1B		*h	1											◎	
アグロスリン乳	3A	劇	*d	6		◎										
アーデント水	3A		*d	5	カ	◎								◎		
サイハロン乳	3A	劇	-	3		◎							◎			
デルスターFL	3A	劇	-	3	カ									◎		
トレボン乳	3A		*d	6		◎										
トレボンEW	3A		-	6		◎										
マブリック水20	3A	劇	*d	2		◎										
アクタラ顆溶*	4A		*d	6	カ		ウ		◎							
アドマイヤー1粒	4A		*e	5	◎	◎										
アドマイヤーFL	4A	劇	*d	5	施	施										
アルバリン顆溶			*d	5		◎	◎	◎	◎							
スタークル顆溶	4A		*c	1		◎		◎	マ							
アルバリン粒			*e	5		◎										
スタークル粒	4A		*e	5		◎										
ダントツ溶*	4A		*d	4	◎	◎	◎		◎							
ダントツ粒	4A		*d	4	◎	◎			マ							
ベストガード溶	4A		*d	4	カ	◎		◎								
ベストガード粒	4A		*d	4	カ	◎			マ							

キ

ク

キク(花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	アザミウマ	アブラムシ	カメシ	コナジラミ	ハモグリバエ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	シロイチモジヨトウ	オオタバコガ	ハダニ	ネグサレセンチュウ	その他害虫
モスピラン粒	4A		*c 1 *i 1	力	◎			◎							
トランスフォームFL	4C		*d 3	◎	◎										
アニキ乳	6		*d 6					マ		◎		◎			
アフアーム乳	6		*d 5	◎											
コテツFL	13	劇	*d 2	み					◎	◎	◎	◎	◎		ア
アタブロン乳	15		*d 5	ナ							◎				
カウンター乳	15		*d 5	◎								◎			
カスケード乳	15		*d 3	力				マ							
マッチ乳	15		*d 5	◎				マ		◎					
マトリックFL	18		*d 4							◎					
ロムダンFL	18		*d 5							◎	◎	◎			
マイトコーネFL	20D		*f 1												ミ
サンマイトFL	21A	劇	- 2		◎										◎
ハチハチ乳	21A	劇	*d 4	◎	◎			◎							
ピラニカEW	21A	劇	*d 1		◎										◎
トルネードエースDF	22A		*d 4							◎		◎			
ファイントリムDF	22A		*d 4							◎	◎	◎			
アクセルFL	22B		*d 6								◎	◎			
スターマイトFL	25A		*d 1												◎
フェニックス顆水	28		*d 4							◎		◎			
ヨーバルFL	28		*d 3	◎						◎		◎			
ウララ50DF	29		*d 6		◎										
グレーシア乳	30		*d 2	◎						◎		◎	◎		
プロフレアSC	30		*d 3							◎		◎			
ファインセーブFL	34	劇	*d 2	◎											
サンヨール乳	-		*d 8		◎										◎
ビルク水	3A・10B	劇	- 1												◎
アクセルキングFL	21A・22B	劇	*d 4	◎	◎			◎		◎		◎			

\*:使用方法は、散布だけでなく株元への灌注や灌水チューブを使用した灌注処理もある。但し適用害虫により登録が異なる場合があるため注意すること。

\*a:定植前 \*c:定植時 \*d:発生初期 \*e:生育期 \*f:開花前まで  
\*g:植付時 \*h:植付前 \*i:生育初期

ア:アワダチソウグンバイ ウ:ウスモンミドリカスミカメ(灌水チューブを用いた灌注処理) カ:ミカンキイロアザミウマ グ:ネグサレセンチュウ及びネコブセンチュウ コ:ネコブセンチュウ  
シ:施設栽培でミカンキイロアザミウマ セ:ネグサレセンチュウ及びハガレセンチュウ ダ:ネダニ類 ナ:ミナミキイロアザミウマ ネ:ネキリムシ類 フ:フラーバラゾウムシ マ:マメハモグリバエ ミ:ナミハダニ  
お:オンシツコナジラミ若齢幼虫  
み:ミカンキイロアザミウマ及びミナミキイロアザミウマ  
施:施設栽培

キ  
ク

## キク (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黒斑病・ 褐斑病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の薬剤のいずれかを散布する。 ストロビーフロアブル 2000～3000倍</li> <li>ダコニール1000 (FL) 1000倍</li> <li>サンヨール(乳) 500倍</li> <li>ベンレート水和剤 2000～3000倍</li> </ul>	最終摘心の20～30日後から薬剤散布を開始する。摘心直後に降雨が多い場合には早めに散布する。
黒さび病	生育期 (春秋)	<ol style="list-style-type: none"> <li>耐病性品種を栽培する。</li> <li>次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤# 400～600倍</li> <li>マネージ乳剤● 500～1000倍</li> </ol>	5～6月、秋の冷涼多湿時に発生しやすい。潜伏期間は10～15日である。 # さび病での登録。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
白さび病	生育期 (梅雨期・ 晩秋)	<ol style="list-style-type: none"> <li>耐病性品種を栽培する。</li> <li>発病前から次の薬剤のいずれかを散布する。 サブロール乳剤●△ 1000～1500倍</li> <li>サンヨール(乳) 500倍</li> <li>ジマンダイセン水和剤# 400～600倍</li> <li>ストロビーフロアブル● 2000～3000倍</li> <li>トリフミン水和剤● 1000倍</li> <li>ポリオキシシAL水溶剤 2500倍</li> <li>マネージ乳剤● 500～1000倍</li> </ol>	●耐性菌を生じやすいので連用しない。 △サブロールは花芽分化期前後の使用をさける。また、品種や作型によっては新生葉に奇形等を生じることがある。 # さび病での登録。
うどんこ病	生育期 (秋～春)	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ピリカット乳剤 2000倍</li> <li>ポリオキシシAL乳剤 500～1000倍</li> <li>モレスタン水和剤*△ 2000～3000倍</li> </ul>	初期防除を徹底する。 *花き類・観葉植物で登録 △モレスタンは高温時や品種によって薬害がでることがある。
白絹病	挿芽前 ・定植前 生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。</li> <li>発病初期に、次の薬剤を株元に灌注する。 リゾレックス水和剤* 500～1000倍 3ℓ/㎡</li> </ul>	*花き類・観葉植物で登録
半身萎凋病	挿芽前 ・定植前 生育期	<ol style="list-style-type: none"> <li>挿穂は健全株から採穂する。</li> <li>土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>罹病株はただちに抜きとり、処分する。</li> </ul>	
ウイルス病		<ol style="list-style-type: none"> <li>モザイク症状などの異常のみられる親株は更新する。</li> <li>アブラムシ類の防除を徹底する。</li> </ol>	

**キク** (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
えそ病	生育期	1. 罹病株は除去する。 2. アザミウマ類を防除する。	TSWVによる。苗感染に注意する。 問題になっている病害虫の生態と防除の項参照。
アブラムシ類	定植時・生育期	1. 次の薬剤を植穴に施用する。 ガゼット粒剤 2 g/株 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 オリオン水和剤40 1000倍 サイハロン乳剤 4000倍 サンマイトフロアブル 1000倍 ベストガード水溶剤 1000～2000倍 3. 施設栽培ではくん煙剤を使用する(くん煙剤の項参照)。	キクに寄生するアブラムシには、キクヒメヒゲナガアブラムシ、キククギケアブラムシ、モモアカアブラムシ、ワタアブラムシなどがある。 アブラムシはウイルス病を媒介するので早期に防除する。
ミナミキイロアザミウマ	定植時または生育期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アドマイヤー1粒剤# 3kg/10a オンコル粒剤5 定植時 6～9kg/10a 生育期 9kg/10a コテツフロアブル 2000倍	#アザミウマ類での登録
ミカンキイロアザミウマ	生育期	・発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 アフアーム乳剤# 1000～2000倍 カウンター乳剤# 2000倍 コテツフロアブル 2000倍 スピノエース顆粒水和剤# 5000倍 ベストガード水溶剤 1000倍 ファインセーブフロアブル# 2000倍	#アザミウマ類での登録
マメハモグリバエ	生育期	・発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 カスケード乳剤 2000倍 カルホス乳剤 1000倍 ベストガード粒剤 2 g/株	
オオタバコガ	生育期	1. 施設の側面および妻面に防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。 2. 発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF 1000倍 スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍 プロフレアSC 2000～4000倍 ロムダンフロアブル 1000倍	

キ

ク

**キク** (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハダニ類	生育期	1. 発生初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 コテツフロアブル 2000倍 サンマイトフロアブル 1000倍 ダニトロンフロアブル* 1000～2000倍 テルスターフロアブル 4000倍 2. 施設栽培ではくん煙剤を使用する(くん煙剤の項参照)。	高温、乾燥時に多発する。 ハダニ類は薬剤抵抗性がつきやすいので、同一薬剤の連用を避け、数種類の薬剤を選び輪換散布を行う(ハダニ類防除薬剤の項参照)。葉裏にも十分散布する。 *花き類・観葉植物での登録
キクモンサビダニ(紋々病)	定植前	1. 発病株から挿穂をとらない。 2. 摘芯した芽を処分する。	
ネグサレセンチュウ	定植前	1. 土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。 2. 次の薬剤のいずれかを全面施用し、土壌混和する。 アドバンテージ粒剤 10～20kg/10 a ネマトリンエース粒剤 20～25kg/10 a	
ハガレセンチュウ	定植前	1. 連作をさける。連作する場合は被害葉を取り除く。 2. 発生した圃場から採芽しない。	
その他の病害虫		根頭がんしゅ病、半身萎凋病、葉腐れ症(リゾクトニア菌)、キクキンウワバ、キクスイカミキリ、キクヒメタマバエ	